

一 栄谷 葛の 意見 私見



首脳会談後にあらた
め閣僚のTPP協議
による早期妥結を指示
し、その結果を踏まえ
ての共同声明の発表。
またTPP担当閣僚に
よる会議時間は4月に
入ってから約40時間、
そして首脳会談で来日
しからの4時間半、
さらに24日未明にかけ
ての協議にまで及ぶと
いう、まさに異例づく
め、手に汗を流す日米
首脳会談であった。

こうした流れの中で
強く印象づけられた一
つは、安倍首相の日米
同盟への全面依存の姿
勢である。今回の首脳
会談での日本側の最優
先事項は、日米同盟強
化を基軸に据えたとす
で、中国、韓国との関
係が緊張・悪化する中、
集団的自衛権について
のアメリカの支持取り
付けと、尖閣諸島への
安保適用にあった。そ
の意味では25日前に
出された共同声明につ
いて安倍首相が「画期
的な声明だ」とウソ
トしているのは、バリ
本音であろう。その意
味では日本側にとって
集団的自衛権と尖閣問
題でのアメリカの理解
獲得が首脳会談の攻
め、とすればTPPは
「守り」となる。日本
にとってTPPのメリ
ットが乏しいことは安

倍首相も自ら承知の話
であろう。ここはきり
きりのところまで粘っ
て犠牲を小さくし、政
治的失点を最小限に食
いとめるという作戦
なのであろう。それだ
けにアメリカにとって
は、集団的自衛権と尖
閣問題で満額回答した
のだから、TPPで日
本が大幅譲歩して当然
ということになる。加
えてオバマ大統領は、

鮮明になつた構図と むき出しの本音

今の交渉レベルで仮に
合意したとしてもア
メリカ議会の通過をき
る保証はない」とも発
言しているが、これは
オバマ大統領にとつ
てもTPP問題につい
ての議会、産業界・団体
等による背後からの圧
力はきわめて強く、先
延ばしするほどに交渉
はさらに厳しさを増す
可能性が高いことを示
唆しているともいえ
る。

第二が、日本がアメ
リカの傘下にいる限
りにはアメリカの言うこ
とを聞けという、むき

出しの本音である。あ
る経済官庁幹部の「過
去の通商交渉と同じ構
図だ。アメリカには相
手に譲るといふ発想が
まったくない」との発
言も報じられている
が、アメリカからして
みればごく当然のこと
でもある。アメリカに
は各国と共生していく
という発想はなく、従
属あるのみ。アメリカ
経済繁栄のためには日
本の農業の崩壊を何
ら問題ではなく、軍事
力を背景にしたウメリ
カ対中国も含めた世
界戦略の枠内で日本の
存在と行動を許容する
にすぎない。

今回の首脳会談でTP
P交渉合意が回避さ
れたことは幸いである
が、あらためて日本を
どのような国にしてい
くのか、また軍事も含
めた国際的な関係・位
置付けをどうしていく
のか根本的に問われて
いるといえる。もはや
戦後の枠組みの中で経
済発展のみを追求して
いくことは不可能であ
り、農業そして地域経
済も守れないことは
すでに明らかである。
経済優先を転換し、食
料・エネルギーをはじめ
めとして地域レベルで
の自給度を向上させ、
自立経済を志向してい
くとともに、各地域、
各国との共生を実現し
ていくことが重要であ
り、これこそが日本が
果たしていくべき国際
貢献でもある。TPP
反対の一方で、地域農
業の複合体である日本
農業の再生に向けて、
地域レベルでの取組み
を急がなければならな
い。(農的社字デザイン
研究所代表)